

ゆっくり芽をだせ 萬歳っ子

旭市立萬歳小学校
 学校だより 第14号
 平成30年11月28日



いったい何が七つなの？ ～豊かな感性は豊かな「? (問い)」から～



丸い目をしたカラスの子

からす なぜなくの からすは山に かわい七つの子があるからよ
 かわい かわいとからすはなくの かわい かわいとなくんだよ
 山の古巣へ 行って見てごらん まるい目をしたいいい子だよ (野口雨情 作詞)
 誰もが一度は口ずさんだことのある童謡「七つの子」。しかしいまだに答えが
 わかっていない謎がこの歌詞にあります。それは「七つ」が何をさすのかということ。
 鳥類学的にからすの「七才」はりっぱな大人(成鳥)。からすが一度に産む卵は多くても4～5個。
 年齢の七つも子の羽数の「七つ」も成り立たないのです。
 歌っていて心地よい旋律ですが「七つ」って何のことかな?と立ち止まり、いろいろ想像したり考えたり
 する感受性豊かな子どもに育つことを願います。毎日の生活や学習をとおしてたくさんの「? (問い)」、
 を見つけることから豊かなものの見方が育ちます。ただ知識を学ぶ授業から子ども
 が自ら問いを持ち追究できるような、豊かな学びをはぐくむように努めて参ります。



【特集】 スタートから10年。「特別支援教育」ってなあに？

「特別支援学級」は、障害のある児童生徒のために小・中学校及び義務教育学校に障害の種別
 に置かれている少人数の学級です。「特別支援教育」の制度は平成19年4月、改正学校教育基本
 法の下にスタートしました。それまでの「特殊教育」が、特別な場で特別な教育課程で行うこと
 が基本だったのに対し、「一人一人のニーズに応じた適切な指導及び支援を行うこと」へと発展的
 に転換されました。知的障害・視覚障害・肢体不自由といった従来の障害に加えて、対象とする
 障害の範囲も広がりました。例えば友だちと上手に活動ができない子やものごとに集中できにく
 い子、すぐにかっとなりやすい子など、いわゆる「発達障害」も支援の対象になりました。

この転換の背景には共生社会の実現に向けた「インクルーシブ教育システム構築」という課題
 に対応することが求められるようになったことがあります。また文部科学省の調査で通常の学級
 に知的な遅れはないにもかかわらず、学習や生活の面で何らかの困り感を抱え、特別な教育的支
 援が必要と思われる児童・生徒が約6.5%在籍していることが明らかになったことがあります。
 困り感を抱え、個に即した支援が必要な児童生徒が多数いることが明らかになったのです。子ど
 もたちが抱えることが多い困り感には例えば次のようなものがあります。

生活の場面で	友だち関係や集団生活で	学習の場面で
<ul style="list-style-type: none"> ・じっとしてられない。 ・面と向かって話しても聞いていないように見える。 ・すぐカッとなってイライラしてしまう。 ・日々の活動を忘れてたり、物をなくしたりする。 ・身の回りの整理が、うまくできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる。 ・相手が困るようなことも遠慮なく言う。 ・思い通りにならないと、すぐ手が出てしまう。 ・ルールや約束を気にとめない。 ・周りの子に、すぐちょっかいを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き間違いがある。 ・言葉につまる。 ・行を抜かしたり繰り返し読んだりする。 ・計算をするのにとても時間がかかる。 ・学習の準備や後片づけにとても時間がかかる。 ・不器用で動作がぎこちない。



個に寄り添い、困り感の低減を図り、一人一人のニーズに応じた教育を進める場が特別支援教育です。この10年間で特別支援学級に在籍する児童生徒数は約2倍に、通級指導を受ける児童生徒数は約2.5倍になり、特別支援教育についての理解は着実に進んできたといえます。

特別支援教育，萬歳小学校ではどのように進んでいるの？

各学校が特別支援教育を推進するキーパーソンが、「特別支援教育コーディネーター」です。特別支援教育コーディネーターに求められる主な役割に次があります。

- (1) 校内の教員の相談窓口 (2) 校内外の関係者との連絡・調整 (3) 地域の関係機関とのネットワークづくり (4) 保護者の相談窓口 (5) 教育的な支援

萬歳小学校では **宇佐美 政之 教諭** が特別支援教育コーディネーターを担当しています。本校では特別支援教育をどのように実践しているか、解説してもらいました。



「オーダーメイドの教育支援」をめざして 宇佐美 政之

以前の「特殊教育」は、障害の種類や程度に応じて養護学校や特殊学級といった特別な場で、行われました。しかし平成19年4月、障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」へと転換されました。

そのことをふまえ本校ではさらに「特別な支援」ではなく、「必要な支援」と考えて個に即して対応心がけています。例えば、視力が低下すれば眼鏡等で矯正をします。気温が低く体が縮こまればストーブで暖をとります。このようにあることによって子どもの日常生活・学校生活が明るく楽しいものになるように、あたりまえの支援をあたりまえにしていくことが本校の支援のあり方だと考えています。

学習面では、漢字が苦手な子、文章を書くことが苦手な子、数字や計算が苦手な子など様々な困難を抱えた子がいます。生活面では、集団の前で自己を表現することが苦手な子、友だちと上手に関わることが不得手な子、あるいはこだわりの強い子、身の回りの整理整頓が苦手な子など様々な困難さや生きづらさ（困り感）を抱えて苦しんでいる子がいます。障害のある児童だけでなく、そうした困難さを抱え支援を必要としている児童の教育的ニーズに応じて、その子にあった教育課程に沿って必要と思われる教育的支援を行っています。

本校の特色でありよさでもあるのは少人数であることです。これを生かしてさらに「オーダーメイドの教育」の実現に向けて努めています。具体的には次のようなスタイルでの支援提供が可能です。

- (1) 支援学級で学習する教科・通常学級で学習する教科を選択できます。

例えば国語と算数は支援学級で、その他は通常学級でというように通級指導も受けられます。

- (2) 支援学級では児童に合った内容・方法・ペースで学習ができます。

例えば算数が苦手な児童は前学年の復習を十分した後、当該学年の学習へと進むことができます。文字を書くことに抵抗がある児童はICT機器を多用して学習を進めることも可能です。

- (3) 困り感に応じたプログラムにより指導を受けられます。例えば友だちとの関係を上手に作る手が苦手な児童は友だちの気持ちの理解の仕方や気持ちの上手な伝え方をマンツーマンで学べます。

- (4) 個別の生活・学習と学級での生活・学習を柔軟に組み合わせることができます。

例えば朝の会・帰りの会あるいは清掃等を支援学級、通常学級のどちらで行うか選択できます。

その他にも、学期ごとのお子さんの変容を家庭に連絡する通知表も通常級と同じ形式のものに加えて、お子さんの努力の跡がわかるよう、一人一人に応じた別様式のものも併せて配付しています。

個に即した支援の内容はお子さんの実態をもとに、保護者とコーディネーター等で話し合い、オーダーメイドの実現に努めて参ります。お子さんのことで気になることや、特別支援教育についてもっと知りたいことがありましたら、相談窓口（川口教頭 平野養護教諭）経由で宇佐美までお気軽にご相談下さい。

ダイアリー 萬歳小歳時記

～ご寄贈 ありがとうございます～

11月25日（日）旭市青少年意見発表会



6年生大湊はるなさんが萬歳小代表として将来の夢についての自分の意見を東総文化会館の舞台上で、堂々と発表することができました。



この度、干潟ライオンズクラブ様より理科の実験・観察で使うための冷蔵庫をご寄贈していただきました。ありがとうございます。